

UCL-IRDR で開催された国際セミナーにおいて東日本大震災復興に関して講演しました (2017/6/22-6/24)

テーマ：東日本大震災、国際防災、1666年ロンドン大火
 場所：ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（英国、ロンドン）

UCL セミナー（UCL-IRDR Seminar 2017）が6月23日にユニバーシティ・カレッジ・ロンドンにて開催され、災害科学国際研究所から村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が招聘されました。本セミナーは、IRIDeS と学術協定を結んでいる Institute for Risk & Disaster Reduction 主催によるもので、今回は「Disaster in Japan 2011 -The Latest Research-」と題して行われました。セミナーは IRDR 関係の研究者や学生とともに、日本人研究者7名が参加し、村尾教授による「Urban Recovery Conditions from the 2011 Great East Japan Earthquake as of June 2017」と題した講演など、2011年東日本大震災以後の日本の災害研究の現状を紹介するとともに、学術的国際連携について議論しました。

また 22 日には、セミナーの一環として、村尾研究室の北村美和子氏（東北大学大学院工学研究科博士課程）の協力のもとロンドン博物館の Meriel Jeater 女史から 1666 年ロンドン大火とその復興について、博物館内の展示とともに説明していただき、ロンドン中心部の同火災被災範囲についても視察しました。



村尾教授(左)と Alexander 教授(右)



参加者集合写真



Meriel Jeater 女史によるプレゼン



ロンドン大火当時の木造建物模型